第十四講　旅論・異文化論

植民地主義イギリスの紀行文学の根強い伝統を論じた著作『海外へ』のなかで、イギリスの批評家ポール・フュッセルは旅人を「探検家」「トラヴェラー」「ツーリスト」の三種類のタイプに類別している。

「探検家」とは、フランシス・ドレーク卿やエドモンド・ヒラリー卿のように、Aしばしば爵位をもってその活動を顕彰されるようなタイプの旅人である、とフュッセルは言う。いかなるトラヴェラーもツーリストも、彼らのなしとげた行為によって爵位を贈られる、というようなことはない。トラヴェラーやツーリストの旅が探検家のそれと同じ程度に困難で記憶されるべき内実をそなえたものであるとしても、それは「行為」として本質的に探検家の実践とは意味づけを異にしているからだ。「探検家」は未知の探求者である。彼らの旅は処女的発見のための旅であり、その地理的・博物学的・考古学的発見の行為は新しい科学的世界像の形成と深く結びついている。彼らは死の危険をすら冒して未知を彼らの世界の側に奪取する文化英雄たろうとする。

一方現代の「ツーリスト」の求めるものは商業主義的な企業家によってあらかじめ発見された大衆的価値である。ツーリストはマスメディアの巧妙なプレゼンテーションによって彼らのために準備されたルートとトポスとをめぐる、現代の［B］な好奇心を代表している。探検家がかたちのないもの、知られざるものと対峙（たいじ）するリスクを進んで冒そうとする人々であるならば、その反対にツーリストは徹底して既知の側につき、すでに確認されたC紋切り型の「知識」を安全性の保証のもとに追認するにすぎない。

そしてこの探検家とツーリストの両極の中間に「トラヴェラー」がいる。彼らは移動の途上で生起するであろうあらゆる予期せぬ経験を旅の長所として留保しつつ、一方で彼らの西欧的アイデンティティが揺らぎだす手前で巧妙に旅の混沌（こんとん）から身を引き離す。彼らは自分がいまどこにいるのかを熟知しつつ、世界放浪のロマンティックな動機に過渡的に身をまかせることのできる旅人なのである。適度な異国趣味と適度な冒険を内側から支える安定した「世界」像のなかで、トラヴェラーは時代の経済原理をたくみに利用しながら旅してゆく……。

フュッセルは「トラヴェラー」に一つの旅人としての理想のスタイルを見出そうとしている。探検家とツーリストという、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

D旅の始まりと終焉（しゅうえん）の実践の両極をわたる中庸の旅人のなかに、真正の旅人へのレクイエムを聞きだそうとしている。だがここで重要なのは、探検家であろうとトラヴェラーであろうとツーリストであろうと、およそフュッセルの描きだす旅のトポグラフィにはつねに特定の起点と終点があらかじめ想定されているという事実の方である。探検家にとっての旅の起点も終点もきわめて明瞭だ。ヨーロッパの中心から国家の期待を背負って旅立った彼らは、ふたたび彼らの都市へと凱旋（がいせん）する。彼らの冒険物語を語り、撮影した処女地の写真を展覧し、爵位を授けられるために……。Eそしてその点において、トラヴェラーとツーリストもじつは変わることがない。トラヴェラーの詩的なヴァガボンドの物語はあらかじめ文明世界において語られるためにこそ体験されるのであるし、ツーリストも保証された帰還をすべての前提として土産を購入し、エキゾティックな土地の一時的占有を示す絵はがきを郷里の友人に旅先から送って彼らの知的戦利品としての風景を誇示するのである。

（今福龍太（いまふくりゅうた）『遠い挿話』より）

〈注〉トポス……場所。
　　トポグラフィ……地勢図。
　　ヴァガボンド……放浪者。

問１　傍線部Aにおいて、なぜ「探検家」は「爵位をもってその活動を顕彰される」のか。次の中からその理由として最も適切なものを一つ選べ。

①　自分の属する共同体と決別し、あえて処女地に旅立つ行動力を持ち合わせているから。
②　危険を省みず、困難な旅を行いながらも、必ずもとの場所に成果をあげて帰ってくるから。
③　処女地を探検し、その場所を自分たちの政治的支配の下におくことは、英雄的な行為と考えられるから。
④　国家の期待を背負いながら未知の土地を目指し、新しい世界像の形成に結びつく学術上の発見を持ち帰ってくるから。

問２　空欄［Ｂ］に入る語として最も適切なものを一つ選べ。

①　実践的　②　活動的　③　受動的　④　現実的　⑤　消極的

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問３　傍線部Ｃの意味として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

①　古びた　　②　価値を持たない

③　型にはまった　　④　形にとらわれた

問４　傍線部Ｄは、どのようなことを意味するか。次の中から最も適切なものを一つ選べ。

①　未知の発見としての旅と既知の追認に過ぎない旅。

②　異郷へ向けての出発と郷里への帰還。

③　冒険の成功と死ととなり合わせの危険。

④　ロマンティックな動機と詩的な放浪の物語。

問５　傍線部Ｅはどのようなことを意味するか。次の中から最も適切なものを一つ選べ。

①　トラヴェラーもツーリストも、西欧的なアイデンティティを異国の地で体現するという意味では、探検家と共通の性格を持っている。

②　トラヴェラーとツーリストは、未知の土地の探求者ではないが、自分の経験談や、旅先のみやげ物を持ち帰るという点で、探検家と類似する。

③　トラヴェラーもツーリストも、どのような形であれ異文化を体験し、また、それを語り、報告すべき、出発地である故郷を持っているという点では、探検家と同じである。

④　トラヴェラーとツーリストは、旅の遂行の仕方と、故郷に帰ってからの待遇が探検家と異なるという点で、共通の特徴を有している。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　今福龍太＝いまふく　りゅうた（一九五五〜）東京大学法学部卒、テキサス大大学院修了。現在、東京外国語大大学院教授の文化人類学者。受験サプリ「高1高2現代文」第四講でも登場しています。そちらは鮮やかなフットボール（サッカー）論になっています。学年を問わず、こちらもアタックしてみてください

○エドモンド・ヒラリー卿（一九一九〜二〇〇八）シェルパのテンジンとともに人類初のエベレスト登頂

○フランシス・ドレーク卿（一五四三〜一五九六）イギリスの航海者・海将。イギリス初の世界周航の達成者。スペインとのアルマダ海戦でも活躍した

語句

紀行＝きこう→旅行記・旅日記・旅行の記録文学　日本の古典文学では、紀貫之（きのつらゆき）の『土佐日記』（平安時代）、松尾芭蕉（まつおばしょう）（江戸時代）の『奥の細道』『笈（おい）の小文（こぶみ）』『野（の）ざらし紀行』などがあります。現代では、歴史小説家として知られる司馬遼太郎の『街道をゆく』

批評＝ひひょう→物事の優れた点や問題点を指摘し評価すること。批判と同義語ではないから注意

爵位＝しゃくい→貴族やナイトの称号。これをもらうと、男性なら「ミスター」ではなく「サー」で呼ばれる

マスメディア→大衆向け、大量伝達の媒体。新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、ネットなど。ネットは双方向性があり、個人からの発信もできるため、マスメディアとは区別することもあります

プレゼンテーション→意見や計画案、企画案の発表や説明。本文では、広告や宣伝、ＣＭくらいの意味です

留保＝りゅうほ→処理を進めず、とどめ置くこと・保留

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

関連語　担保＝たんぽ→確保すること・借金や負債のときの保証になるもの
放浪＝ほうろう→一か所に定住せず、あちこち巡り、さすらうこと
　関連語　流離＝りゅうり→故郷を離れて放浪すること
アイデンティティ→自己同一性・昨日の私も今日の私も明日の私も、基本的に同じであること・私らしさ（ただし、
　自分だけの思いこみにとどまらず、他者からもそのように認められていることが大事）
混沌（渾沌）＝こんとん→入り混じって区別がつかない状態・ギリシャ語のカオス
　対義語は、秩序で、ギリシャ語のコスモス
巧妙＝こうみょう→方法や技術が見事で上手なこと
ロマンティック→現実から離れた物語的な様子
過渡的＝かとてき→移り変わる過程、途中経過
異国趣味＝いこくしゅみ→異国情緒・エキゾティズム
終焉＝しゅうえん→おわり・終極・果て
中庸＝ちゅうよう→かたよらず、中性であること。行き過ぎも不足もないこと
レクイエム→鎮魂歌（ちんこんか）・死んだ者の魂を鎮める音楽
凱旋＝がいせん→勝利や成功のあと帰国すること
処女地＝しょじょち→誰も訪れたことのない未発見の地・人跡未踏
保証＝ほしょう→請け負う、受け合うこと　（例）身元保証人、借金の保証人。他にも「あなたの合格を保証します」
　など
　同音異義語　保障→権利や自由、安全、生活などを守ること　（例）日米安全保障条約
　　補償→発生してしまった損害の埋め合わせや補填（ほてん）　（例）損害補償

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十四講

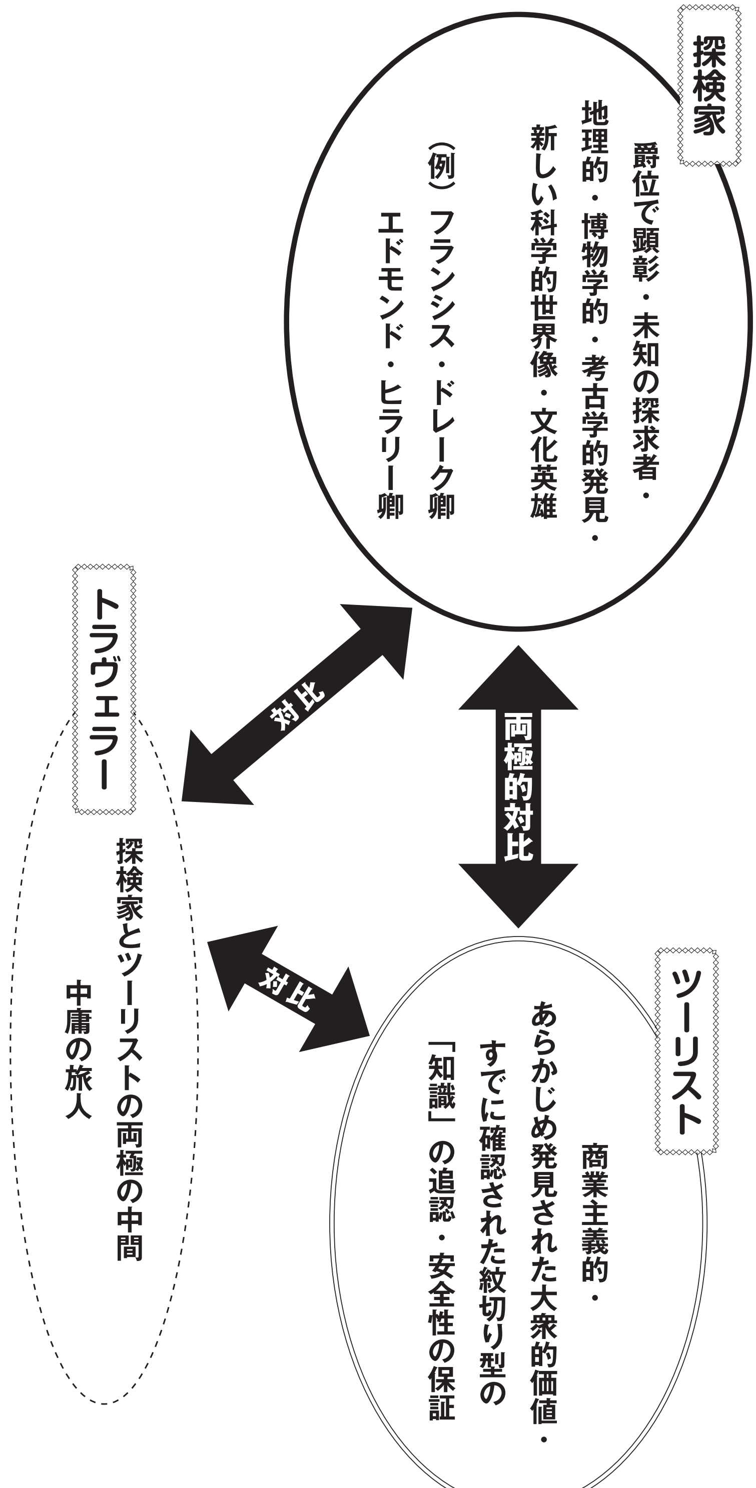
次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）旅の行程をキ行文にまとめる　①帰　②記　③紀　④既　⑤来
（イ）文学や芸術作品を批ヒョウする　①評　②表　③票　④標　⑤俵
（ウ）敵の地位や名を奪シュする　①主　②取　③守　④手　⑤首
（エ）犯罪の手口がコウ妙化する　①高　②効　③考　④巧　⑤功
（オ）社会変革の過ト的な状況　①途　②登　③戸　④吐　⑤渡
（カ）未開の地へとボウ険に旅立つ　①望　②貿　③冒　④暴　⑤膨
（キ）自らの立場をテッ底する　①徹　②鉄　③哲　④撤　⑤轍
（ク）漂泊の旅、放ロウの旅に出る　①狼　②朗　③郎　④浪　⑤労
（ケ）ここを旅のシュウ焉の地とする　①収　②終　③拾　④執　⑤集
（コ）過激にならず中ヨウの道をゆく　①揚　②様　③洋　④用　⑤庸

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講　旅論・異文化論

《本文の対比構造》



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《傍線部説明・選択肢》

①は「自分の属する共同体と決別し」が×。「決別（きっぱりわかれることだよ！）」なんてとんでもない。出発点の共同体（社会や国家）とつながってますよ。だからこそ、成功して帰ってくれば（それを凱旋（がいせん）という）、「爵位」が待っているわけですから。矛盾しますね。記述に反する誤りです。②は「必ずもとの場所に成果をあげて帰ってくる」が×。不死身か！　彼らは「死の危険をすら冒して」いるのです。当然、帰国できない、成果も得られない人たちもいたはずです。ちなみにイギリスのスコット隊は、南極点一番乗りをノルウェーのアムンセン隊と競って敗れ、しかもその後全滅、だれも帰還できませんでした。ともあれ、本文にないのに〝あらゆる・すべての・いつでも・どこでも・かならず〟などと拡張している間違いを不当な全称判断と呼びます。③は「政治的支配の下におく」が×。植民地か！　たしかに探検家の発見が政治的支配・領土化・植民地化のきっかけや足がかりになったことは歴史的事実かもしれません。しかしそこまでは時間もかかるし、それは探検家の仕事ではなく軍隊の仕事でしょうね。なにより、そのような歴史に関する知識が問われているのではありません。現代文の試験です！　本文では「地理的・博物学的・考古学的発見」「新しい科学的世界像の形成」「文化英雄」とありますよ。記述に反する誤りです。④の「学術上の発見」こそ正解です。

問２《空欄補充・選択肢》

「ツーリスト」に関する問題です。③の「受動的」か⑤の「消極的」かで迷うかもしれません。ほぼ同じ意味で使われることも多いですからね。しかし、旅行代理店によって用意されたパッケージツアーに参加するだけにしても、参加するだけの積極性はあるわけです。そもそも「消極的」だったら旅にもでません。本文の「あらかじめ発見された」「準備された」「すでに確認された」の表現に合致するのは「受動的」です。観光地でみかけるような、旗をふっている添乗員さんにぞろぞろついていく旅行スタイルが一つの典型ですね（なんか、表現にトゲがあってすみません）。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問３《語句説明・選択肢》

問２につづいて「ツーリスト」に関する問題です。この「紋切り型」はよ〜く入試に出ます。どこをとっても模様やデザインが同じということです。伝統的な和菓子に〝金太郎アメ〟というのがあるでしょ。長いスティック状に仕上げ、どこを切っても同じ金太郎の顔が出てくるアメですね（一つだけ桃太郎とかQ太郎とか、オカルトです！）。英語ではステレオタイプ・ステロタイプといいます。もともと印刷用語だったようです。うなずけます。型どおりということです。本文に則して言えば、ツーリストは旅行パンフレットのような商業広告を見て参加するわけですが、その参加者は基本的に同じルートを巡り、同じ感動を味わうように企画されているということです。したがって③の「型にはまった」が正解。④の「形（かたち）にとらわれた」と迷ったかもしれません。しかし、これだと〝内容や本質をみていない〟という意味になってしまいます。〝前人未到の探検⟷パッケージされた観光旅行〟という対比はあれども、〝かたち・表面だけ⟷なかみ・本質〟という対比はありません。そうです、これではたちまち正しい対比喪失の誤りを形成してしまいます。こうして、迷ったとき、何と何を比べているのだろうということを考えると、たちまち迷いや疑問が氷解することが多いです。なんとなくこっち、というような選択肢選びはもうおしまいです。みなさんの知的な習慣にして。

問４《傍線部説明・選択肢》

「旅の始まりと終焉」は探検家とツーリストをたとえた比喩です。これを文字通りに〝旅のスタートとゴール〟と解釈してはいけません。それをやってしまったのが②の「〜出発と〜帰還」です。比喩の誤解・比喩を文字通りに解釈した誤りは**《誤りの選択肢の典型例一覧》**にも収録されているようによくある、つまり仕組まれた間違いです。〝目に入れても痛くない孫〟〝尻に火が付く〟〝他人のために骨を折る〟などすべて比喩です。ホントにやったら痛いよ。では、なぜ比喩とわかるのか。第四段落に「探検家とツーリストの両極の中間に『トラヴェラー』がいる」とあります。これを繰り返す形で「探検家とツーリストという、旅の始まりと終焉の実践の両極をわたる中庸の旅人」とあるからです。したがって「探検家」のキーワード「未知の発見」と「ツーリスト」のキーワード「既知の追認に過ぎない」を答えている①が正解です。③は「探検家」のことしか書いていません。こういうのを部分的指摘の誤りと言います。④は「トラヴェラー」のキーワードを答えてしまいました。「探検家とツーリスト」な

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

のにね。はい、対比混乱の誤りです。

問５《傍線部説明・選択肢》

三者の共通点の説明です。「爵位」をもらえるのは「探検家」だけですが、行って帰るホームがあるよ、という点ではトラヴェラーもツーリストも同じです。ホームがあるからアウェイを楽しめるのです。本文でも「ここで重要なのは、探検家であろうとトラヴェラーであろうとツーリストであろうと～特定の起点と終点があらかじめ想定されているという事実」とありますよ。傍線の「その点」は、この「重要な」点を指します。したがって③が正解です。①はどうでしょうね。「西欧的なアイデンティティ（西欧人らしさ）」とありますが、それが書かれていたのは「トラヴェラー」だけです。三者に共通ではなく部分的指摘の誤りとなります。なお、細かいことを言うと「西欧的なアイデンティティを異国の地で体現する」は記述に反する誤りです。これでは、わざわざ外国で西欧人らしさを発揮するという意味になります。例えば、せっかく日本にきているのにスシもラーメンも食べず、日本酒も飲まず、ボルドーワインを飲み、フォアグラやブルーチーズをこれ見よがしに食べ、これが西欧の食のたしなみだと実感するといったイメージでしょうか。本文で言っているのは、まったく逆です。例えば、日本にきて、おでんに天ぷら、アジの開きなどすっかり日本食を食べ歩き、これじゃ西欧人らしさがあやういなというころに、ヨーロッパに帰っていくということです。②は「自分の経験談や、旅先のみやげ物を持ち帰る」が×です。これは「トラヴェラー」や「ツーリスト」にはあてはまっても「探検家」には当てはまりません。部分的指摘の誤りです。探検家がもたらすのは「新しい科学的世界像」ですからね、話が小さすぎます。その点では、不当な矮小化と呼ぶことも出来ます。エドモンド・ヒラリー卿が持ち帰ったのが、エベレストの置物だったり、キャプテン・ドレークが持ち帰ったのが帆船のプラモデルだったらどうするの！④は「探検家と異なるという点」を挙げてしまいました。冒頭で書いたように、三者の共通点を問うていますからね。記述に反する誤りです。また、二者の共通点だけ挙げているということでは、部分的指摘の誤りです。

模範解答

問１＝④　問２＝③　問３＝③　問４＝①　問５＝③

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第十四講

（ア）③　（イ）①　（ウ）②　（エ）④　（オ）⑤
（カ）③　（キ）①　（ク）④　（ケ）②　（コ）⑤

解答漢字一覧

（ア）紀行文　（イ）批評　（ウ）奪取　（エ）巧妙　（オ）過渡的
（カ）冒険　（キ）徹底　（ク）放浪　（ケ）終焉　（コ）中庸

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。